

城陽地域の「村誌」の情報化

東 昇

一 「村誌」の概要

今回、情報化した「村誌」は、明治前期の城陽地域一〇ヶ村、平川・久世・寺田・水主・富野・枇杷庄・観音堂・中・市辺・奈島村分である。上津屋は、中心集落が八幡市となるため、『八幡地域の古文書と石清水八幡宮の絵図』（京都府立大学歴史学科、二〇一〇年、一四七～一四八頁。）に含まれている。村誌の概要についても同書に詳しいため、概略のみ記す。この「村誌」は、「皇国地誌」「郡村誌」とよばれる、明治八～一八年（一八七五～一八八五）の全国的な地誌編纂により、各府県で作られたものである。地誌には、京都や伏見の市街地に関する「市街誌」、郡全体の記述である「郡誌」、各庄郷町村の「庄誌（八幡庄）」「郷誌（宇治郷、淀郷）」「町誌」「村誌」の種類がある。この時期は、明治三二年（一八八九）の大規模な町村合併以前であり、近世村の範囲に近い各村の状況を、全国同じ基準で知ることができる貴重な資料である。

城陽地域の「村誌」は、京都府立総合資料館が所蔵する「京都府庁文書」の「京都府地誌」の一部である。水主、市辺、奈島の三村は「綴

喜郡村誌下」（府地誌二八）、それ以外の七村は「久世郡村誌」（府地誌二六）、久世郡全体は「久世郡誌」（府地誌一一）である。

内容は、各村取捨選択しているが、名称、疆域、幅員、管轄沿革、里程、地勢、地味、税地、飛地、字地、貢租、戸数、人数、牛馬、舟車、山川、森林、湖沼、道路、堤塘、陵墓、社寺、学校、郵便局、村会所、古跡、物産、民業である。

京都府、特に山城地域の各村の近世後期から明治期の実態について調べるには、この「村誌」以外に、明治一六年「神社明細帳」「寺院明細帳」、明治一九～二〇年「町村沿革調」、明治四四～四五五年「維新以前地方民政制度調査」がある。

二 「村誌」の情報化の方法

今回の作業は、京都府立総合資料館でマイクロフィルム化された紙焼き、デジタルカメラで撮影した画像を用い翻刻した。翻刻は文化情報学実習を受講した七人の学生、一人の院生が担当し、形式を重視しながらワードに入力した（二七六～三〇三頁）。この翻刻本文から、各村の道路、堤防、川、字、寺社、旧跡、物産などを地図に記した「村誌図」を作成し、各「村誌」の後に挿入している。ここで利用した地図は、「村誌」が作成された時期に近い、陸軍陸地測量部作成の明治二三年測量、三〇年修正図「淀」、明治一七年測量、二七年印刷「田辺」「長池駅」の三点を利用した。この地図をフォトショップで加工し、イラストレーターで項目を追記した。各村界は地図上に記されているものを参考にした。

字の位置は、『城陽市史』四(一九九六年)の付図五「城陽市地名図」(原図足利健亮)を参照にした。この地図は解説によると「城陽市字界図」(一九九五年城陽市作成)をもとに、近世の村絵図の字を追加したものである。寺社は「村誌」の場所の記述、修正図の地図記号、現在の位置から確定した。その他の堤防や川など現状確認が難しい場合は、すべて「村誌」の場所の記述、修正図の地形、それぞれの典拠とした史料から推定している。最後に各村の比較が一覧できるように、翻刻から貢租や人口などの数値を表化したものが「村誌統計表」(二七五頁)である。

史料凡例

- 1 本書に掲載した史料翻刻の表記について示しておく。
- 1 翻刻にあたって基本的には原史料の記述を尊重しているが、以下の点については変更を加えている。
- 2 文字は原則として常用漢字を用い、常用漢字にないものは正字を用いた。但し人名・地名は表記のまま記した。
- 3 誤字・脱字などは、(ママ)(カ)、正字を()で注記した。
- 4 ふりがなは該当文字の後()に、割書はへゝで示した。
- 5 虫損・汚損などによつて文字が判読できない箇所は、□・一―一で示した。また、判読不明な文字は■で示した。
- 6 読みやすくするため、適宜読点を施した。
- 7 表紙、内表紙、挿入、訂正、抹消などは、該当する部分を「」で囲み、「」内に注記している。

史料一 京都府地誌 村誌(平川村)

村誌

山城国久世郡平川村

本村開創年紀得テ攷フ可カラス、古へ貴族ノ邸宅墳墓等此間ニ在シト云、今ニ至リ城・政所・車塚・指月塚等ノ字ヲ存ス、其村名ノ起因ハ東ニ方ル長谷川、往時坡塘ナク水ノ散渙平流セシヲ以テ号クト云、又西方ニ人家数箇アリ、古ヨリ大亀茶屋ト称シ本村ニ属ス

疆域

東南ハ長谷川及ヒ田畝ヲ以テ同郡久世村ニ対シ、西ハ古川ヲ域リ上津谷村ニ並ヒ、北ハ大久保村ト野径ヲ以テ境ス

幅員

東西二十町南北六町五十間、面積欠ク

管轄沿革

古昔ノ事分明ナラス、徳川氏執政以後其領邑タリ、後三分シ宝鏡寺宮・醍醐氏ノ封有トナル、明治二年併テ京都府管轄ニ歸ス

里程

京都府庁ヨリ南方本村中央ニ達スル五里十五町、四隣東南久世村中央へ六町、富野村ノ内長池宿里程標へ三十三町、西上津屋村中央へ十八町、八幡庄里程標へ一里廿五町、北大久保村中央へ七町余、廣野村里程標へ十六町

地勢

東方山嶺迤邐三面平谿、右方上津屋村ヲ隔テ木津川ヲ帯ヒ、左方南海道筋ノ公路ヲ通ス、運輸便利ニシテ薪炭乏シカラス

地味

東部高燥ニシテ其色淡黒茶及ヒ果樹ニ適ス、内部ヨリ西方ニ彌リ淡黄色質粘厚ナリ、尤稲梁ニ宜シ砂地ハ甘藷ニ利アリ、

水利モ亦便ナリ

税地

田 〆三拾壹町九反七步、畑 〆三拾九町貳反九畝七步、大縄畑 〆三町壹反九畝拾貳步、山野 〆反別欠ク、総計 〆七拾四町三反八畝貳拾六步

字地

梶塚 〆村ノ東方ニアリ、以下同シ、古塚ノ名今ニ至リ一堆ノ墳形ヲ存ス、車塚ノ跡此間ニアリ、形宮車ヲ覆フカ如シ、東西三丁南北六丁、山道 〆東西八丁南北七丁、横道 〆東西二丁南北四丁、茶屋裏(チャヤウラ) 〆東西二丁南北四丁、鴻嶋塚今亡ンテ此地トナル、東垣内(ヒカシカイト)

〆東西四丁南北五丁余、室木(ムロキ) 〆村ノ北勝手社地ヲ云、東西四丁四十間南北四丁、野原(ノハラ) 〆同上東西三丁南北三丁、古宮(フルミヤ) 〆村ノ南ニアリ、東西五丁廿間南北壹丁三十間、古時貴族ノ館址ト云、其事跡詳ナラス、指月 〆民家ノ中央ヲ称ス、指月塚初メ此所ニアリ、今其形ヲ失フ、城政所(シロマントコロ)ノ字此間ニアリ、東西

四丁十五間南北四丁十間余、廣田 〆本村西部ヲ称ス、下並同シ東西八丁十五間南北一丁、中道表(ナカミチオモテ) 〆東西九丁南北五十間、大將軍 〆東ヨリ西ニ延ク、其長六丁二十間余、西六段(ニシロクタン) 〆東西三丁二十間南北二丁十間、浜道裏(ハマミチウラ) 〆東西八丁四十間南北二丁二満タス、此地淨円寺ノ西北ニ中ル、長箴(ナガラサ) 〆宅地ノ西北ニ直ル、東西八丁四十間南北一丁余

貢租

地租 〆金千八百拾六円七拾七銭壹厘、口米金 〆金五拾四円

五拾八銭六厘、山税 〆金貳円拾九銭、野税 〆金三拾貳銭壹厘、

芝税 〆金貳拾三銭四厘、国税 〆金拾七円九拾銭、府税 〆金三円貳銭貳厘、総計 〆金千八百九拾五円貳銭四厘

戸数

本籍百二十二戸 〆平民、寄留一戸 〆平民、社三戸 〆村社一座無格社二座、寺二戸 〆浄土宗一字真宗一字、総計百廿八戸

人数

男二百八十七口 〆平民、女二百六十六口 〆平民、総計五百五十三口 〆外寄留男一人

舟車

日本形船二艘 〆五十石未満荷船、人力車四輛荷車六輛 〆中車、総計十輛

川

長谷川 〆二等河ニ属ス、本郡中村ノ山谿ヨリ発シ西北ニ流ル、長凡八丁廿間巾五六尺、水常ニ流レス霖雨ノ後流動ヲナス、古川溝 〆南方久世村界ヨリ来リ、本村ノ西界ニ沿ヒ北流シテ巨椋池ニ歸ス、長五丁余巾二間、本村及ヒ近傍数箇村ノ用悪水路ナリ、西六段橋 〆古川溝ニ架ス、長二間巾四尺石造

道路

大和街道 〆北方大久保村界ヨリ南方久世村界ニ至ル、長六町三十二間巾三間五分、中間ヨリ西ニ折レ綴喜郡八幡ニ通スル支道アリ

社

平井神社 〆村社々地東西十七間二分南北六十五間五分、面積千百十九坪、村ノ東ニアリ、素盞鳴尊・八十猛命・奇稲田姫命ヲ祀ル、祭日十月十日、勸請創立ノ年月詳ナラス、初メ牛頭天皇祀ト号ス、慶応丁卯年改称ス、勝手神社 〆平井社ノ北ニアリ、社地四至欠ク面積七十四坪、祭神愛鬘命、寛正五

年甲申八月大和国吉野ヨリ勸請ス、明治十二年十一月廢ス、
 以下同シ、龍王社へ勝手社ノ側ニアリ、社地四至欠ク面積
 二百八十六坪、祭神安閑天皇、勸祀年月分明ナラス

寺

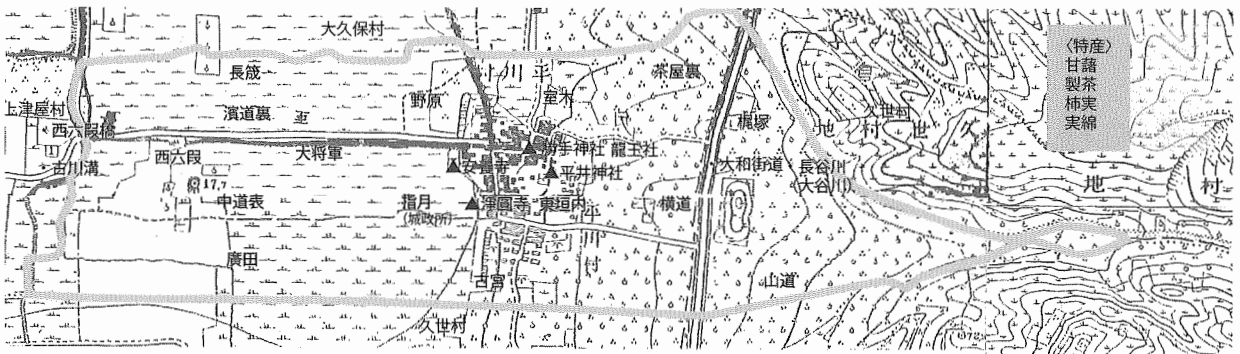
安養寺へ平井祠ノ西ニ隣ル、境内東西十三間三分南北十二間
 五方面積百六十六坪、浄土宗京都知恩院ニ属ス、開基創立不
 詳天正中僧普転中興ス、浄円寺へ本村中央ニアリ、境内東
 西十一間南北十四間七方面積百六十二坪、真宗京都興正寺末、
 天正三年乙亥僧了長開建ス

物産

甘藷へ八千二百八十余貫目、製茶へ二万三千百五十斤、柿
 実へ四十七荷、実綿へ千五百斤、其質良、以上京都及ヒ伏
 見ニ輸送ス

民業

男へ農ニシテ製茶ヲ兼ル者八十四戸、雑業三十八戸、女へ農
 及ヒ製茶スル者百七十人



平川村

▲ 寺・社・名所
 無印 字
 ・ 川・山・堤・道路

史料二 京都府地誌 村誌（久世村）

村誌

山城国久世郡久世村

旧時ノ沿革總テ詳ナラスヘ久世ノ郷名今亡フ、蓋シ本村ハ其
祖郷ノ地ナル可シ、

疆域

東南ハ同郡寺田村ニ接シ田畑道路ヲ界トシ、西北一方ハ木津
川中央ヲ以テ上津屋村ニ対シ、又道路ヲ以テ平川村ニ面シ、
東北ハ大谷山ヲ隔テ宇治郷及ヒ廣野村ニ連ル

幅員

東西九一里南北三町、面積欠ク

管轄沿革 往古ノ事分明ナラス、慶長以後徳川氏之ヲ領ス、慶安中ニ

至リ其三分ヲ昭子内親王（後水尾天皇ノ皇女）ノ領邑トス、
尋テ勸修寺宮及ヒ中園氏ノ分領トナリ、徳川氏領ハ京都守護
職領トナリ後、淀藩ニ附セラル、明治四年辛未ニ至リ共ニ京

都府管轄ニ歸ス

里程

京都府庁ヨリ南方本村中央ニ達スル五里十七町、四隣東南寺
田村ヘ十町、西北上津屋村ヘ三十町、平川村ヘ五町余、淀小
橋ヘ九二里余、東北宇治郷里程標ヘ五十町、廣野村里程標ヘ

十六町

地勢

民居ヲ四部落ニ分ツ、中央二部ヲ垣内ト称シ、北方ヲ大亀茶
屋ト称シ、木津河畔ヲ八町ト称ス、平川村ノ耕地西北ヨリ斗
入ス、地勢東西ニ長ク南北ニ狭シ、内部垣夷田野開豁ス、東

地味

方山嶺ヲ疊ミ、下ニ一線ノ南海道ヲ通シ、西方木津川ヲ帶フ、
運輸便利薪炭乏シカラス

東部土色浅黒茶ニ適ス、然ルモ動モスレハ旱燥ノ患アリ、西
部概肥沃其蠶色ナルモノハ稲麦綿菓ニ宜シク、砂地ハ蕃薯ニ
宜シ、灌溉亦便ヲ得タリ

税地

田（拾九丁壹反六畝式拾八歩）、畑（三拾式丁八反五畝拾七
歩）、大縄田（七畝九歩）、同畑（式丁壹反式畝拾九歩）、

山野（反別欠ク）、總計（五拾四丁式反式畝拾三歩）

飛地

東南（本村ノ）方寺田村ノ内、田（壹反拾五歩）、畑（壹丁
三反歩）

字地

里ノ西（サトノニシ）（本村西部ノ地ヲ云フ、下同シ東西三
丁南北四丁）、荒内（アラチ）（東西二丁南北三丁）、止ヶ辻（ヤ
ミカツチ）（東西二丁南北三丁）、古川端（東西一丁半南北
二丁半）、垣内（カイド）（中部ノ耕地并宅地、九方四丁内ヲ
云）、若王子（ニヤクワウジ）（村ノ東ヲ云、東ヨリ西ニ連ナ
ル長五丁）、大谷（同所東ヨリ西ニ延ク、長拾丁今東西二分ル）、

大亀茶屋（オホカメチャヤ）（村ノ北ニアリ、東西五丁南北
一丁、按スルニ大亀ハ大神（オホカミ）ノ訛ナリテ、其故ハ
久世ノ大神（オホカミ）ノ柯辺ナレバ、自ラ此称ヲ伝ルカ）

地租（金千三百貳拾六円七拾九錢四厘）、口米金（金三拾九
円九拾九錢五厘）、山税（金六円三拾七錢七厘）、野税（金六
錢）、国税（金五円貳拾錢）、府税（金三円六錢三厘）、總計（金
千三百八拾壹円四拾八錢九厘）

貢租

貢租

戸数 本籍九十一戸（土族二戸平民九拾戸）、社一戸（郷社）、寺二

戸（浄土宗）、総計九十四戸

人数 男二百八口（土族一口平民二百七口）、女二百八口（土族三

口平民二百五口）、総計四百十六口（他出寄留十四人、男八

人女六人）

牛馬 牡牛二頭

舟車 日本形船二艘（五十石未満荷船）、荷車一輛（中小車）

山 大谷山（村ノ東北ニアリ）、高詳ナラス周囲九四里二十町、嶺

上ヨリ三分シ、東南ハ寺田村ニ属シ、北ハ宇治郷及白川村ニ

属シ、西面ハ本村ニ属ス、山脈南北ニ連亘ス、小松ヲ稀生ス、

登路一条山下ヨリ山頂迄五丁、溪水数条特ニ大ナルヲ大谷川

ト称ス、皆北流シテ大久保村ヲ過キ巨椋池ニ入ル、其間十八

丁巾三間、平時一面ノ沙磧村民之ニ由リ樵採路トス）

川 木津川（一等河ニ属ス、上流ヲ寺田村トシ下流ヲ上津屋村

トス、長ニ丁廣五丁ヨリ二丁、深五尺ヨリ一尺五寸ニ及フ、

古川橋（村往還ニ属ス、架シテ村ノ西方古川溝ニアリ、長三

間半巾四尺木製）、古川溝（村ノ西ニアリ、田圃間ヲ北流ス、

土人云万葉集ニ載ル所ノ玉久世川ハ此古川溝ノ事ナリト、又

久世神社旅所境内敷林中、堤塘ノ如キモノニ条アリテ、自ラ

川形ヲ為ス、是レ玉久世川ノ跡ナリトモ云フ、皆確説ニアラ

ス、南方寺田村ヨリ起リ本村及ヒ上津屋村等ヲ經テ本郡大池

ニ入ル、村内ノ長ニ丁二十間巾二満タス、諛川本村ニテ

田二十五丁余歩ノ養水ニ供ス）

森林

芝ヶ原林（久世神社ニ接ス、官ニ属ス、反別三町壹反壹畝式

拾歩四履詳ナラス、松及雜木ヲ生ス、圍一尺ヨリ六尺余ニ至

湖名

池三（一ハ村ノ東ニアリ、東西百三十四間南北五十八間、周

圍百九十二間、一ハ同方ニアリ、東西百四間南北三十二間五

分、周圍百三十七間、一ハ村ノ西北ニアリ、東西六十五間南

道路

北同上、周圍百三十間、共ニ田十二丁歩ノ用水ニ供ス）

大和街道（一等道路ニ属ス、長四丁十一間巾三間半、北方平

川村界ヨリ南方寺田村界ニ至ル、左右民家田畑ヲ以テ相挟ム、

西側中央ヨリ西ニ折レ淀八幡ニ通スル支道アリ、伝云今ノ大

和街道ハ豊臣秀吉ノ鑿通スル処、其古道ハ東方久世鷺坂ニシ

テ、今ノ久世神社ノ辺是ナリト云）

堤塘

木津川堤（木津川ニ沿ヒ、南方寺田村境ヨリ北方上津屋村境

ニ至ル、長二十間馬踏二間堤敷二十七間、所々小竹ヲ生ス、

修繕官民兩途ニ属ス）

陵墓

古塚（總テ十一アリ、何人ノ塚ナルヲ知ラス、其八ハ久世社

辺ニ存シ、其二ハ字南垣内ノ田圃及林中ニアリ、共ニ地形稍

墳起ス、其一ハ字芝ヶ原ノ山地ニアリ、塚上松ヲ生ス、大塚

又狐塚トモ云）

社

久世神社（郷社、社地東西百間南北二十三間、面積二千三百

坪、村ノ東ニ鎮座ス、是地即チ古へノ小筱峰鷺坂ニ当ル、日

本武尊ヲ奉祀ス、祭日十月七日、境内松檜等ノ老樹祠廟ヲ圍

ム、創建年月記伝ヲ欠ク）

寺

来迎寺へ民家中央ニアリ、境内東西八間南北二十九間、面積二百三十二坪、浄土宗知恩院ニ属ス、開基創建年度不詳、慶安中昭子内親王資財ヲ寄テ敗宇ヲ修完セラル、萬福寺へ村ノ中央ニアリ、境内東西二十四間南北十八間、面積四百三十二坪、浄土宗粟生光明寺末、開基創建年度不詳、或云旧時禪宗ニシテ僧殊峯開建スト

村会所

へ村ノ中央ニアリ

古跡

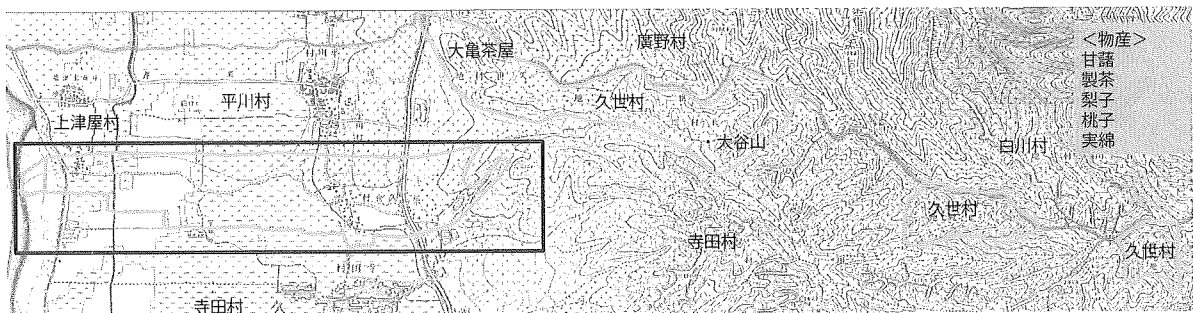
久世鷺坂(クセノサギサカ)へ和歌ノ名所ナリ、一名小笹峯久世神社ノ社ヲ称ス、古へノ大和街道ニシテ久世富野ノ東部長池ノ間ニアリ、古昔日本武尊薨後其神白鳥ニ化シ、西二翔リテ暫ク小笹峯ニ止ル、依テ山ヲ白鳥鷺坂山ト称スト事ハ大和本紀等ニ出ツ、蟹池(カニイケ)へ右社地茂林中ニアル円形ノ小池ヲ云フ、往古此池ヨリ数千ノ蟹出テ巨蛇ヲ螫殺セシコト往々口傳ニ存セリ、久世野原(クセノ、ハラ)へ其地詳ナラス、和歌ノ名邑ナリ

物産

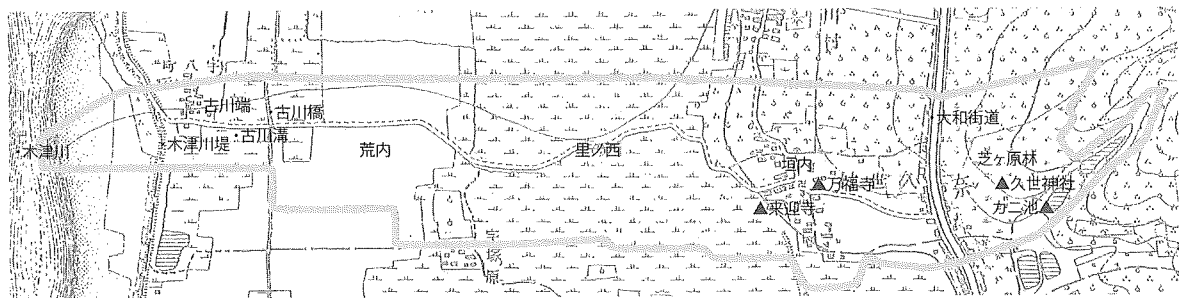
甘藷へ二百六十五荷、製茶へ一万二千五十斤品位上等、梨子へ二千四百貫目、其味佳下同シ、桃子へ百貫目、実綿へ三千三百七十四斤、以上多クハ京坂及ヒ伏見ニ輸出ス

民業

男へ農ニシテ製茶ヲ兼ヌル者七十六戸余ハ雑業、女へ農業製茶ヲ兼ル者百余人



久世村



久世村中心部

注:「止ヶ辻」「若王子」「大谷」「久世鷺坂」「久世野原」は不明

▲ 寺・社・名所・古跡
無印 字地・村
・ 川・山・堤・道路

史料三 京都府地誌 村誌 (寺田村)

村誌

山城国久世郡寺田村

本村古時寺田郷又寺田庄ト称ス、当時支属ノ村邑何レニ在ヤ
詳ナラス、今西境ニ一簇ノ民戸アリ、本村ノ出戸ニシテ字塚
本ト称ス

疆域

東ハ綴喜郡郷ノ口村ト奥山ヲ以テ境シ、西ハ同郡岩田村ニ面
シ木津川中央ヲ経界トシ、西南ハ同郡水主村及ヒ本郡富野枇
杷庄ノ三村ニ隣リ田畦ヲ以テ界シ、北ハ久世広野白川ノ三村
ト栗子山及ヒ耕壤ヲ隔テ相對ス

幅員

東西凡二里南凡十三町、面積欠ク
管轄沿革中古仙洞大宮女院ノ御料タリ、元弘元年ニ至リ女院
ノ御料及ヒ花山院氏ノ領トナリ、元禄六年更ニ徳川氏領ニ移
リ、享保元年仙洞大宮ノ御料並ニ徳川氏領トナリ、明治四年
ニ至リ全ク京都府管轄ニ歸ス

里程

京都府庁ヨリ南方本村中央ニ達スル五里十九町、四隣東綴喜
郡郷ノ口村中央へ二里、西同郡岩田村中央へ二十八町、南本
郡枇杷庄村中央へ二十一町余、富野村ノ内長池宿里程標へ
二十四町余、北白川村中央へ凡一里、広野村里程標へ二十九
町

地勢

東疆山巒屏列シ、西疆木津川ノ巨流ヲ帶ヒ、中部大和街道ヲ
通ス、運漕便利諸品乏シカラス

地味

東部ハ皆乾田、土色薄赤砂地ハ浅黒ヲ帶フ、果木及ヒ茶ニ適
ス、水利不便間々旱燥ニ苦シム、其余ハ水田多ク、其土黒其
質垣稲禾ニ適ス、砂地純ラ甘薯ヲ植ウルニ宜シ

税地

田ハ百貳拾八町貳反七步、畑ハ百貳拾五町三反貳畝貳拾六步、
大縄田ハ九畝拾貳步、大縄畑ハ四拾町九反五畝拾九步九厘、
山ハ反別欠ク、総計ハ貳百九拾四町五反八畝四步九厘

字地

水度阪(ミトサカ)ハ又三田坂(ミタサカ)トモ云、古ハ三田
郷水度ノ地名正ニ此辺ニ当ルト云、即往時ノ大和街道ナリ、
村ノ東方ニアリ、下同シ東ヨリ西ニ連ル長五町、袋尻(フ
クロシリ)ハ南北ニ連ル長三町十間、宮平(ミヤノヒラ)ハ
東ヨリ西ニ長シ但四町十間、宮谷(ミヤノタニ)ハ東ヨリ西
ニ長シ但四町二十五間、林口(ハヤシノクチ)ハ東西六町
二十間南北一町二十間、高田(タカタ)ハ東西三町南北一町
五十五間、東口(ヒカシクチ)ハ東西二町余南北二町十八間
、奥山(オクヤマ)ハ山地ヲ云東西三十町南北十間、北東
西(ホクトウサイ)ハ東西三町南北一町二十間、中大小(ト
ウダイセウ)ハ東西三町南北二町、樋尻(ヒジリ)ハ村西ニ
アリ、下皆同シ東西八町三十間南北一町二十六間、今橋(イ
マハシ)ハ東西三町五十五間南北四町三十五間、大林(オホ
ハヤシ)ハ東西四町南北一町五十二間、西ノ口ハ東西五町
二十間南北二町、北川頬(キタカハツラ)ハ東西一町四十八
間南北六町四十間、浜代(ハマダイ)ハ南北二連ル長 十三
町十間、塚本(ツカモト)ハ旧ト一古塚アリ、今亡フ、東西

五町南北三町二十四間、円浄寺(エンジャウジ)〈東西四町五十五間南北一町四十五間〉、乾出北(キヌキデキタ)〈東西ヨリ西二長ク六町二亘ル〉、島垣内(シマカイト)〈村ノ南ニアリ、旧亀塚アリ、今亡ブ西二町三十七間南北五町五十間〉、今堀(イマホリ)〈村ノ西南方ニアリ、下並同シ、東西六町五十五間南北二町五十五間〉、大畔(オホグロ)〈東西五町五十五間南北三町五十五間〉、金尾(カナヲ)〈東西三町三十五間南北三町五十七間〉、南川類(ミナミカハヅラ)〈東西二町四十六間南北四町五十六間〉、南堤下(ミナミツ、ミシタ)〈東西二町南北三町五十間〉、尺後(シヤクジリ)〈村ノ北ニアリ、下同シ、東西二町五十五間南北二町五十二間〉、垣内後(カイトジリ)〈東西四町南北一町五十七間〉、深谷(フカタニ)〈村ノ東北ニアリ、下皆同シ、東西九町五十間南北一町四十間〉、北山田〈東西五町南北一町二十間〉、大谷〈東西十一町三十間南北一町二足ラス〉、正道(シヤウタウ)〈東西三町三十間南北二町二十間〉、尼塚(アマツカ)〈今塚廢壞シテ所在ヲ失フ、東西三町二十間南北四十五間〉、市久保(イチクホ)〈村ノ東南ニアリ、東西三町二十間南北三町〉、大河原〈前同所下並同シ東西五町南北四十間〉、築留(ツキトメ)〈東西八町二十間南北四十八間〉、中芝(ナカシバ)〈東西六町三十間南北四十五間〉、丁子口(チャウシクチ)〈東西二町二十五間南北二町四十間〉、新池(シンイケ)〈東西二町四十六間南北三町二十三間〉、庭井(ニハキ)〈東西四町

五十間南北三町五十間

貢租

地租〈金八千八拾円貳拾貳錢四厘〉、口米金〈金貳百四拾三円五錢三厘〉、山税〈金貳拾壹円五拾四錢四厘、但同郡久世村立会トモ〉、国税〈金貳拾六円六拾錢〉、府税〈金貳拾五円拾七錢六厘〉、總計〈金八千三百九拾六円五拾九錢七厘〉
本籍四百四十戸〈士族一戸、平民四百三十九戸〉、社一戸

戸数

〈村社〉、寺六戸〈天台宗一宇、浄土宗五宇〉、總計四百四十七戸

人数

男千百七口〈士族一口、平民千六口〉、女千四十八戸〈士族一口、平民千四十七口〉、總計二千百五十五口

牛馬

牝牛二頭

舟車

日本形船三艘〈五十石未満荷舟〉

人力車五輛

山

奥山〈高周詳ナラス、或ハ長谷山ト称ス、山脈中村ノ蛇喰山ニ連ル、本村ノ東方ニアリ、小松ヲ疎生ス、登路数条十七町ヨリ五六町、山ノ西北ニ当リ一条ノ水路ヲ通ス、平時水流ヲ見ス、即長谷川ノ源ニシテ久世村以下四村ヲ過キ伊勢田村ニ至リ巨椋湖ニ注ク、中八間長三十町〉

川

木津川〈一等候河ニ属ス、川中五町余深処五尺浅処一尺余中二町、南方綴喜郡水主村界ヨリ北方久世村界ニ至ル、長十三町十七間〉、古川溝〈本村東方字新池河原ヨリ発シ、田間ヲ環注シ西北流郡中ノ諸村ヲ經過シ末巨椋池ニ注ク、其中凡二間南方観音堂、富野、枇杷庄、水主等諸村ノ悪水ヲ泻下シ、本

道路

村以北諸村ノ養水トナル、本村ニ於テハ田凡二十町歩ニ灌ク
大和街道へ一道路ニ属ス、本村中央ヨリ東ニ方ル、道ノ
左右田畝家屋ヲ以テ挟ム、北方久世村境ヨリ南方富野村界ニ
至リ、長十三町三十三間中四間、支道ニ線アリ、一ハ西折シ
テ淀八幡ニ通シ、一ハ西南ニ折レ富野村ヲ歴テ斜メニ綴喜郡
ニ通ス

堤塘

木津川堤へ木津川ニ沿ヒ、南方綴喜郡水主村界ヨリ北方本郡
久世村界ニ至ル、長十三町十七間馬踏一間堤敷ニ二十七間、処々
細竹ヲ生ス、修繕官民両途ニ属ス

社

水度(ミト)神社(式内村社、村ノ東方水度坂ニ鎮座ス、社
地四履欠ク、面積三千九百九十三坪、祭神天照皇大神・高皇
産靈神・少童・豊玉姫命、勧請ノ年記不詳、祭日十月二日、
境内老樹繁茂ス、明治十五年三月郷社ニ列セラル

寺

三縁寺(村ノ中央ニアリ、境内四履欠ク、面積四百五十八坪、
愛宕郡浄土宗知恩寺ニ属ス、開礎年度詳ナラス、下皆同シ、
治承四年庚子兵火ニ廢シ僅ニ草庵ヲ結ヒ寺号ヲ保ツ、明治六
年丁巳二月僧橋山中興ス、長光寺(村ノ北ニアリ、境内四
履欠ク、面積二百五十六坪、浄土宗知恩院ニ属ス、寛永八年
辛未十一月僧萬空再興ス、念佛寺(村ノ東ニアリ、境内東
西十七間二分南北二十三間六分、面積二百七十六坪、浄土宗
本郡宇治郷平等院塔中浄土院末、中古破壊セシヲ天文二十一
年壬子僧知覚中興ス、高岳寺(村ノ西南ニアリ、境内四履
欠ク、面積百四十一坪、浄土宗京都報恩寺末派、中古衰敗セ

シヲ天正十二年甲申八月僧誓岳中興ス、弘願寺(境内四履
欠ク、面積二百十三坪、村ノ東偏ニアリ、本寺前ニ同シ、天
正五年丁丑僧念誓中興ス、大泉院(村ノ西南ニアリ、境内

学校

人民共立小学校二所(村ノ東ニアリ、生徒男百七十四人女
九十五人)

村会所

(村ノ中央ニアリ)

古跡

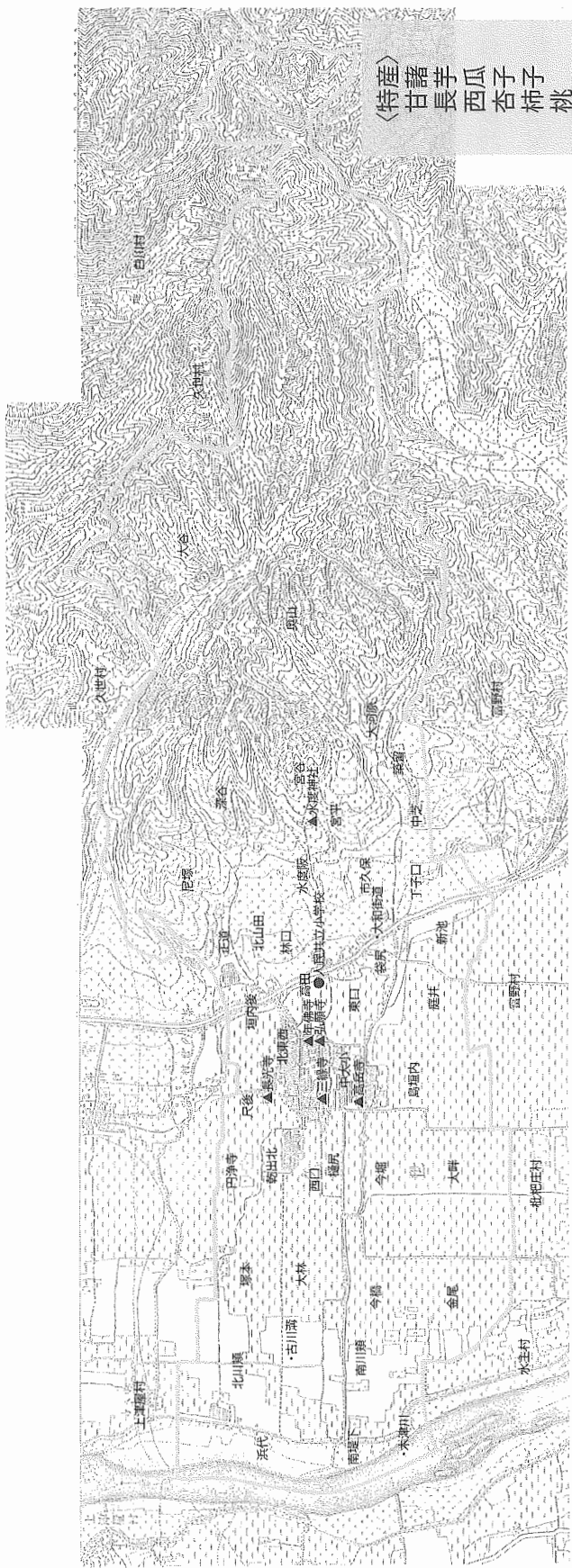
正面寺跡(旧時街道ノ西側ニアリシ巨刹ナリ、永久中兵火ニ
亡フ、後世土民其遺跡ニ觀音堂ヲ造ル、夜叉(ヤシヤ)觀音
即是ナリ、今又廢ス、円浄寺跡(村ノ西北ニ其跡アリ、今
田畑ノ字ニ残ル、何レノ時力廢亡ニ就ク、元弘元年ノ頃ハ猶
存セリト云)

物産

甘薯(千六百荷、其味尤モ甘シ)、長芋(百六十荷)、西
瓜(二千六百顆)、杏子(九六拾五荷)、柿子(四百荷)、
桃(凡百四十荷)、製茶(四万四千七百斤)、実綿
(六千五百六十斤、品質稍佳量)、菜種(二十五石八斗、中
等二位ス)、以上京阪并伏見ニ輸出ス

民業

男(農シテ製茶ヲ兼ル者三百八十戸、雑業六十戸)、女(農
業及ヒ雑作ヲ営ナム者六百余人)



〈特産〉
 甘藷 芋 西瓜 子 杏 柿 桃 製茶 綿 菜種

▲ 寺・社・名所・古跡
 △ 無字
 ● 川・山・堤・道路
 ○ 学校

寺田村

注：「北川瀬」-「北川瀬」か、「南川瀬」-「南川瀬」か、「中芝」-「南川芝」か
 國濟寺跡、大泉院不明
 (出典「史料が語る城陽近世史 第三集・寺田地域編」城陽市教育委員会
 1988年)

史料四 京都府地誌 村誌（水主村）

村誌

山城國綴喜郡水主村

本村往古久世郡水主郷ノ地今本郡ニ入り村号トナル、初メ上下二村ニ分レ後一村トナル、其年月等都テ詳ナラス（本郡ノ位置木津川ノ西ニアリ、本村独り東岸ニ孤立シ、久世郡ノ各村ニ囲マル）

疆域 東ハ久世郡枇杷庄村養水路ヲ以テ界シ、西南本郡大住村ト木津川中央ヲ以テ界シ、北ハ久世郡寺田村ト道路ヲ以テ界ス

幅員 東西九町南北十町余、面積未タ実測ヲ經ス

管轄沿革享保三年ヨリ御料ニ入り小堀氏代官所タリ、其以前詳ナラス、明治元年ヨリ京都府之ヲ管シ、同四年淀藩版圖ニ歸シ明年還タ京都府ニ属ス

里程 京都府庁ヨリ南方伏見通南海道筋ヲ歴、本村中央ニ至ル里程六里十五町二十間、童仙房支庁木津出張所ヨリ北方和東道本村中央ニ至ル里程四里十六町、四境東久世郡枇杷庄村中央迄相距ル五町、西南本郡大住村中央迄十五町、寺田村中央迄十三町、南久世郡長池宿里程標迄三十二町十三間

地勢 東北平野接連シ、西南木津川ニ浜シ、人煙南部ニ鍾マル、運輸便利薪炭等皆他方ヨリ取ル

地味 質肥腴ニシテ灰色、稲麦桑茶尙宜シキニ適フ、水利又便ナリ
税地 田（拾弍丁五反四畝弍拾壹歩）、畑（拾六丁零九畝拾壹歩）、

字地

新田（壹反弍畝弍拾七歩）、大繩附洲畑（四反壹畝歩）、總計（弍拾九丁壹反七畝弍拾九歩）

田町（村ノ東南隅ニアリ、南ヨリ西ニ曲連ス、長凡二丁四十間）、宗真坊（田丁ノ北ニアリ、東西ニ連ナル、長凡一丁二十間）、塚ノ木（宗真坊ニ相對ス、東西凡一町）、池田（東西塚木ニ隣ス、長凡二町）、森ノ東（前同所ノ北ニ並フ、東ヨリ西ニ連ナル長二丁十間）、龜這（カメハヒ）（水主社ノ東傍ニアリ、東西ニ相連ナル、長凡二丁）、ガマダ（村ノ東北角ニ位シ、南ヨリ西北ニ通ス、長凡二丁）、北ノ口（宅地ノ西北口ヲ稱ス、凡三丁四方）、樺井（水主社ノ西傍ニアリ、南北二長シ凡一丁四十間）、宮ノ馬場（水主社ノ四圍八丁四方ノ所ヲ云）、森ノ西（樺井ノ北ニアリ、南北長凡一丁五十間）、倉貝（森西ノ北ニ沿フ、南北長凡一丁十間）、ソリ（村ノ西境ニアリ、東ヨリ西ニ連ナル、長凡一丁）、野神（村ノ北境ニアリ、東西凡一丁四十間、以下三丁東ニ同方）、大將軍（南北二亘ル、長一丁四十間）、八町（南北ノ亘凡二丁三十間、昔此所ニ水主社ノ摂社アリ、別雷神ヲ祀ル、山城志云在水主社今称別雷神、延喜式為久世郡土人云其摂社昔在水主村某年洪水大堤決崩、神祠與民居俱流凶其沢口地今曰八町云）、厂又（カリマタ）（東西長凡一丁三十間）
地租（米百五拾六石零壹升弍合、此金八百拾壹円四拾七錢壹厘）、賦金（口米四石六斗八升、此金二拾四円三拾四錢二厘）、国税（金拾壹円拾錢）、府税（金四円八拾錢）、總計（金

八百五拾壹円七拾壹錢三厘

戸数 本籍八十五戸（士族一戸平民八十四戸）、社二戸（村社二座

ノ、寺二戸（浄土宗二寺）、総計八十九戸

人数 男 百九十五口（士族一口平民百九十四口）、女百九十六口

（平民）、総計三百九十一口

舟車 日本形船一艘（五十石未満渡舟）

川 木津川（一等二属ス、久世郡枇杷庄村ヨリ来リ本村ヲ経テ同

郡下津屋村ニ通ス、其間十余丁両岸ノ距離五丁二十間、平水

深キ処四尺浅キ処尺ニ満タス）、水主ノ渡（木津川ニアリ、

里道ニ為ス、渡口宇樺井ニ置ク、渡舟一艘私設ニ属ス、川ノ

広狭浅深前条ニ出ツ、或云此津維時所謂泉河樺井渡ナリ、延

喜雜式云凡山城国泉河樺井渡瀬者、官長率東大寺工等、毎年

九月上旬造仮橋、来年三月下旬壊収、其用度以除帳得度田地

子稻壹百束充之、上説ニ拠ルトキハ昔時ハ冬春ノ際仮染ヲ築

セシナルヘシ）、養水溝（木津川ノ分水ナリ、村内字春田森

ヨリ導キ東部ノ田十丁余ニ灌キ、兼テ悪水ヲ瀉下シ末流ニ派

トナリ寺田村ニ入ル、長八丁五尺）

道路 里道（北方南海道ニ通シ、西方津口ニ通ス、長十三丁中間

馬踏五尺道敷ノ巾一間一尺）

堤塘 木津川堤（木津川ニ沿フ、南方枇杷庄村界ヨリ西北寺田村界

ニ至ル、長十五丁三十八間馬踏二間敷地巾二十間、堤上竹ヲ

植フ、修繕費官ニ属ス）

社 水主神社（式内村社、村ノ東北字龜這東ニアリ、境内除地東

西三十七間南北五十五間、面積二千零三十五坪、勧請年月不

詳、祭神十座天照大神・天香語山（アマカグヤマノ）命・天

叢雲（アマノムラクモノ）命・天忍男（アマノオシオノ）命・

建額赤（タテアカビノ）命・建諸隅（モロスミノ）命・建筒

草（タテツ、クサノ）命・建太春命・倭得玉彦（ヤマトエタ

マヒコノ）命・山城大國魂命、祭日九月三日、社地老樹数株

アリ、初メ字樺井ニ鎮座シ、寛文十二年壬子十二月此地ニ遷

移ス、文徳実録云天安二年七月辛未、宣命雨師乙訓水主貴布

祢神等為祈雨也、類聚国史云貞觀八年七月二十日辛酉、授山

城国從四位下水主神從四位上、末社二座室城社ハ区々廻智神

ヲ祀リ、野上社ハ天穗日命ヲ祀ル、共ニ境域中ニアリ）、樺

井月（カバイツキノ）神社（式内神社、水主社地ニアリ、今

村社ニ列ス、一名川上社月讀命ヲ祭ル、山城志古典ヲ授テ云

大宝元年夏四月勅樺井神々稻自今以後給中臣氏、承和十二年

五月遣使綴喜郡樺井社奉幣以禳牛疫、貞觀元年正月授正五位

下、九月遣使奉幣為風雨祈焉云々）

寺 法城寺（村ノ西北ニアリ、境内貢租地、東西十八間南北十七

間、面積三百零六坪、浄土宗京都知恩院派ニ属ス、相伝フ昔

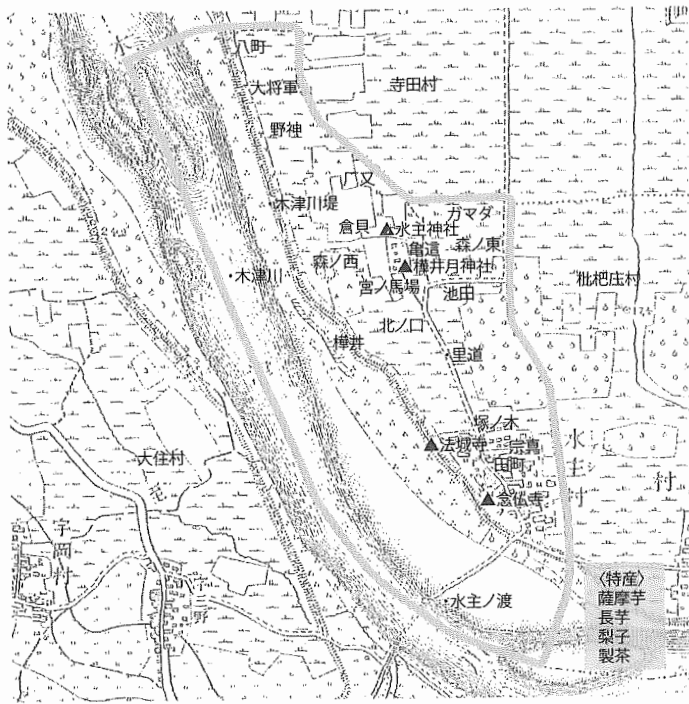
源義朝構立スル処其後焼亡ニ付ス、天和三年癸亥僧萬説再興

ス）、念佛寺（村ノ西南ニアリ、寺地貢租地、東西二十七間

南北十五間、面積四百零五坪、浄土宗鎮西派京都東山一心院

末、建久九年壬午僧重源創立開基ス）

村会所（村ノ中央字東町ニアリ、仮設ナリ）



注：養水溝は不明。字ソリとあるがワリのことか。

水主村

▲ 寺・社・名所
 無印 字
 ・ 川・山・堤・道路

物産

薩摩芋（九千五百貫目）、長芋（四十貫目）、梨子（五百六十荷、目方十七八貫目）一荷トス、製茶（六千五百斤、目方三百を一斤トス）、以上ノ品物京都大坂及伏見地方へ多ク輸送ス

民業

男（農作ヲ業トスル者八十戸、製茶ヲナス者五戸）、女（男業ニ同シ）

史料五 京都府地誌 村誌（富野村）

村誌

山城国久世郡富野（トノ・トムノ）村

本村ハ旧富野郷ノ地、後世狭山庄ニ隸ス（按スルニ古事記中卷ニ曰御立（ミタ、シテ）宇遲野（ウヂヌノ）上（ウヘニ）望（ミアケマシテ）葛野（カヅラヲ）云々、日本記菅田天皇紀曰至菟野上（ホトリニ）而歌云々、後人此紀ニ抛リ或ハ本村ヲ以テ葛野ニ当ツ、記伝詳ニ其非ヲ弁ス、今之ニ從フ、古ノ栗隈県（栗隈・栗前・栗籠・栗子皆全所）ハ本村部内長池町ヨリ以北広野村辺迄ノ称ナリト云、長池町初メ本村ノ出戸タリ、中頃独立シ維新後復本村ニ隸ス、栗隈溝ノ跡今長池町裏（字古池）又元池ト云田畠アリ、試ニ地ヲ刺スニ一丈余ハ力ヲ勞セス、其下ニ至テハ甚牢固、又所々清水ノ涌出スルアリ、此レ後世溝ヲ埋メシ址ナリト云、日本紀仁徳紀云二年冬十月、堀大溝於山背栗隈県以潤田、是以其百姓毎年豊年也トニ其字ヲ存ス、長江御園（類聚雜要抄ニ長江御園瓜茄子蘿蔔云々）ハ土人稱ク、栗隈溝ノ下流ニシテ、往古木津川坡塘ナキ時逆流ノ水合匯セル所（今長池町ノ東、字里開ノ耕地此レ長江ノ址ト云）云云中古以來ノ沿革形勢總テ詳ナラス、長池駅（駅場八村ノ東ニアリ、南海道筋一等道路ヲ通ス）東ハ同郡中村及ヒ綴喜郡郷ノ口村ト長谷山ヲ以テ界シ、西ハ本郡枇杷庄村ト道路ヲ以テ界シ、南ハ観音堂村ト耕地ヲ隔テ、

疆域

北八官山及ヒ田畑ヲ以テ寺田村ニ対ス

幅員 東西一里十五町二十間南北十五町、面積欠ク

管轄沿革徳川氏執政以來淀藩領タリ、長池町半ハ同藩ニ屬シ、半ハ徳

川氏領トス、明治四年辛未ヨリ俱ニ京都府管轄ニ歸ス

里程 京都府庁ヨリ南方本村里程標ニ達スル六里五十二間余、四隣

東中村中央ヘ十二町余、西枇杷庄村ヘ十五町、南観音堂村ヘ

七町、北寺田村ヘ二十五町、宇治橋ヘ凡二里八町、西北淀小

橋凡三里半

地勢 東群山ヲ負ヒ、西巨流ヲ帶ヒ、中央官道ヲ通ス、運輸便利薪

炭乏シカラス

地味 山下ハ赤土ニシテ其質悪、桑茶ニ適スレトモ水利便ナラス、

故ニ旱ニ苦シム、西北木津川ニ近キ処ハ黒埴ニシテ頗ル美質、

故ヲ以テ稲粱を殖ウヘシ

税地 田ヘ百壹町貳反九畝貳拾四歩五厘、畑ヘ七拾三町五反拾歩

五厘、山税ヘ反別欠ク、總計ヘ百七拾四町八反五歩

字地 鷺坂ヘ東北官山ノ下ニアリ、長池町ヨリ東北五六町許ニ中ル、

東西四町余南北二町余久世鷺坂此ナリ、往古大和街道筋ニ當

ル、五社ヶ谷ヘ天神宮社ノ旧地、居民地ノ東ニアリ、東西

二町半南北同上、別所ヘ官山ノ西麓ヲ云、東西二町二十間

南北二町十間、荒見田ヘ本村北境、東西三町南北五町四十

間二亘ル

貢租 地租ヘ金五千貳百円八拾五錢五厘、口米金ヘ金百五拾六円

三拾壹錢、山税ヘ金九円六拾貳錢貳厘、国税ヘ金五拾九

円、府税ヘ金四拾八円七錢貳厘、總計ヘ金五千四百七拾三円九拾五錢五厘

戸数 本籍三百六十六戸ヘ平民、寄留四戸ヘ士族二戸、平民二戸

ノ、社二戸ヘ村社、寺五戸ヘ浄土宗、總計三百七十六戸

人数 男八百八十二口ヘ平民、女八百八十五口ヘ上同、總計

千七百六十七口ヘ外寄留十三人男八人女五人

舟車 日本形船一艘ヘ五拾石未滿荷船、人力車十九輛

山 長谷(ナガタニ)山(中村ニ於テハ蛇喰(ジャバミ)山ト云ヒ、

寺田村ニテハ長谷山ト云フ、緒山ニシテ樹木ヲ生セズ、高欠

ク周回七拾三町三十五間二尺、村ノ東方ニアリ、頂上ヨリ五

分シ、西ハ本村ニ屬シ、東ハ綴喜郡郷ノ口村ニ屬ス、山脈東

方郷ノ口村諸山、西方官山字狼谷ニ連ル、登路三条一ハ本村

字南長谷ヨリ上ル、昇リ二十六町余易ニシテ遠シ、一ハ寺田

村字北長谷ヨリ登ル、昇リ九五町易ニシテ近シ、一ハ郷ノ口

村ヨリ上ル、昇リ九十五町路稍峻、溪水ニ柔木津川ニ通ス、

巾各二間其一ハ玉久世川ト云フ常水ナシ、雨後僅ニ涓流ヲ見

ルノミ

川 木津川ヘ一等河ニ屬ス、深処四尺浅処尺ニ至ラス、巾三町

三十間、概沙磧水其間ヲ曲流ス、上流綴喜郡奈嶋村界ヨリ来

リ西流シ、本郡枇杷庄村界ニ入ル長八町、富野渡ヘ南海道

ヨリ綴喜郡田辺村ニ通スル、官渡、木津川下流字夷前(エビ

スサキ)ニアリ、渡船一艘、浅深廣狭上ニ詳ニス、渡口民家

ノ南ニアリ

森林

狼谷林へ長谷山ニ隣ル、即旧名栗隈山ナリ、本村ヨリ東北方五町許ニアリ、官ニ属ス、反別貳拾町八及貳畝歩、四至間數詳ナラス、松樹ノ外余木ヲ見ス、囲三尺以下長之ニ称フ

道路

大和街道へ一等道路ニ属ス、南方寺田村界ヨリ北方観音堂村界ニ至ル、長一町二十間中四間

堤塘

木津川堤へ木津川ニ沿ヒ、南方奈嶋村界ヨリ西方枇杷庄村界ニ至ル、長十二町三十五間馬踏一間堤敷二十三間、水門一所、所々小竹ヲ生ス、修繕官民両途ニ属ス

陵墓

荒塚三へ共ニ村ノ東北ニアリ、一ハ女頭(メノト)塚ト称シ、二ハ北ノ芝塚ト称ス、現時塚形ヲ失ヒ榛莽トナル、何人ノ塚ナルヲ審ニセス、土人云其近傍ヨリ時々土壘、或ハ劍槍ノ属ヲ発掘スト

社

天神社へ土人以テ安羅見神社ト称ス、村社々地四履欠ク、面積千八百九十坪、村ノ北方字荒見田ニアリ、天神七世ヲ祭り八幡・賀茂・春日ノ三神及ヒ蛭子命ヲ配祀ス、和銅三年字五社ケ谷ニ鎮齋シ、天正年間今ノ地ニ移座スト、祭日十月五日、域内花樹老朽等アリ

寺

極楽寺へ村ノ西南ニアリ、境内四履欠ク、面積百十四坪余、浄土宗知恩院末、開基僧名建立年代詳ナラス以下全シ、慶長十九年甲寅僧聖譽開基ス、西方寺へ村ノ西南ニアリ、境内四履欠ク、面積百六十八坪半、慶長十七年壬子僧空円更ニ之ヲ中興ス、大蓮寺へ村ノ中央ニアリ、境内四履欠ク、面積七百九十五坪半、浄土宗知恩院ニ属ス、元和二年丙

辰僧純譽再興ス、正行寺へ村ノ西南ニアリ、境内四履欠ク、面積二百三十七坪半、浄土宗京都大雲院末、天文八年癸亥僧

向譽開基ス、西照寺へ村ノ西方ニアリ、境内四履欠ク、面積九十七坪、浄土宗京都一心院ニ属ス、宝永元年甲申僧正悦中興ス

学校

人民共立小学校一所へ村ノ中央ニアリ、生徒男百二十一人女六十人

郵便局

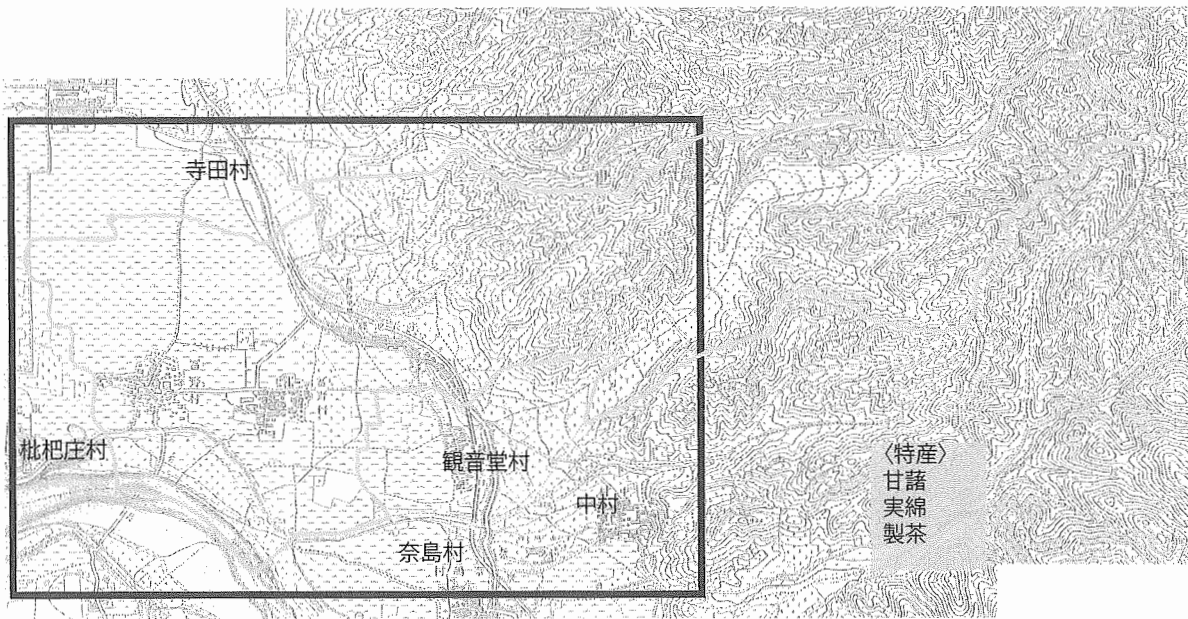
五等郵便局へ字長池ニアリ

物産

甘藷へ四万七千貫目、実綿へ五千一百斤、製茶へ二万八千斤、以上多ク京坂及ヒ伏見神戸港ニ輸出ス

民業

男へ農業製茶ヲ兼ル者二百八十四戸、工商四十戸余ハ襍業、女へ農ヲ事トスル者二百二十九人、製茶百十人



富野村



注：天神社は現在荒見神社と呼ばれている。
 (出展：『史料が語る城陽近世史—第二集・富野荘地域編—』
 城陽市教育委員会 1985年)

富野村中心部

史料六 京都府地誌 村誌 (枇杷庄村)

村誌

山城国久世郡枇杷庄村

本村ノ名義何ニ由テ起ルカ詳ナラス、旧狭山庄ニ属シ、廢置分合等ノ變革ナシ

疆域 東八同郡富野村ニ接シ、西八綴喜郡水主村ニ隣シ共ニ道路ヲ以テ界シ、南八綴喜郡田辺村ト木津川中央ヲ以テ境トシ、北八本郡寺田村ト田疇ヲ隔テ、相對ス

幅員 東西九町三十間南北十二町四十五間、面積欠ク

管轄沿革 往古ノ事詳ナラス、徳川氏執政以來近衛氏・淀藩及ヒ片桐氏分領ス、明治四年十二月ニ至リ京都府管轄ニ皈ス

里程 京都府庁ヨリ南方本村中央ニ達スル六里五町二間余、四隣東富野村へ八町三十間、長池宿里程標へ十八町五間、西綴喜郡水主村へ六町二十間、南同郡田辺村へ二十四町四十間、北本郡寺田村へ二十一町十間、西北淀小橋へ凡三里

地勢 南木津川ヲ帶ヒ、三面耕野相連ル、運輸便利薪炭乏シカラス其色黒ク其質美、稲粱及ヒ棉果ニ適ス、水利モ亦便利ナリ

税地 田へ貳拾三町六反四畝貳拾八歩壹厘、畑へ貳拾八町壹反六畝拾七歩、大繩畑へ七反三畝拾四歩、野へ反別欠ク、總計へ五拾貳町五反四畝貳拾九歩壹厘

字地 大三戸(オホミト)へ村ノ西南、水主村ニ沿フ、南ヨリ北ニ連ル、長九五町、西ノ口へ民家ノ西側ヲ云フ、東西九二町

余南北九三町、大堀(民家ノ北辺ニアリ、方九四町)、嶋宮(シマノミヤ)へ村ノ東方ニアリ、東西三町南北四町半、知原(チハラ)へ民家ノ北方ヲ云フ、東西九三町南北九二町、京繩手(村ノ西方ニアリ、東西二町南北三町余)、長井(前全所ノ北ニアリテ寺田村耕地ニ接ス、東西二町南北三町半)、出羽(イツルハ)へ耕地ノ中央ヲ云フ、九方三町、鹿脊田(カセタ)へ野村境ニアリ、東西四町南北四町半、廣峰(ヒロミネ)へ村ノ北ニアリ、東西九三町南北九二町、中奥田(ナカオクダ)へ前全所ニ連ル、東西四町南北二町

貢租

地租 へ金千七百六拾四円七拾四錢七厘、口米金 へ金五拾三円九錢、野税 へ金五円、国税 へ金拾円、府税 へ金三円三拾壹錢六厘、總計 へ金千八百三拾六円拾五錢三厘

戸数

本籍九十七戸(平民)、社一戸(村社)、寺四戸(浄土宗)、總計百二戸

人数

男二百四十六口(平民)、女二百十六口(全上)、總計四百六十二口(他出寄留七人男三人女四人、外寄留十三人男五人女八人)

川

木津川(二等河ニ属ス、中九四町深処四尺浅処二尺、東方富野村界ヨリ来リ、西方綴喜郡水主村界ニ至ル、其間九十町余、養水溝(二流二分派ス、一ハ宮池ヨリ注キ十三町間ヲ曲流ス、中一間、一ハ今池ヨリ長七町間ヲ廻ル、中五尺、合セテ三拾町ノ田ヲ潤ホス)

堤塘

木津川堤(木津川ニ沿ヒ、東方富野村界ヨリ西方綴喜郡水主

村界二至ル、其間長九丁四十六間馬踏二間半堤敷十三間半、水門一所、根堅メ小竹ヲ生ス、修繕官民兩途ニ属ス◇

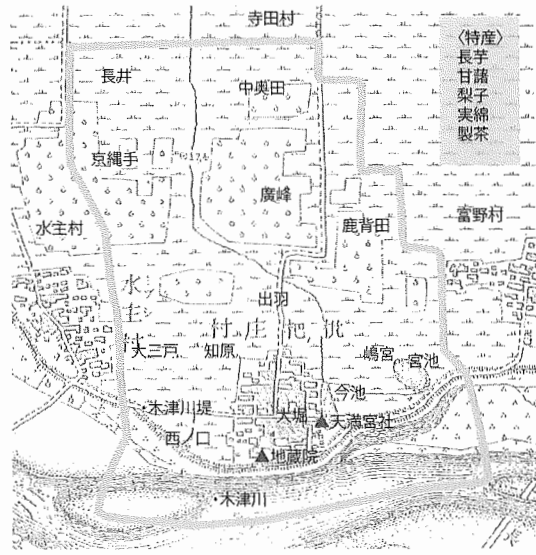
湖沼
今池へ村ノ南ニアリ、東西十三間半南北十五間周回五十七間、本村ノ凡水トス下同シ◇、宮池へ村ノ東西隅ニアリ、東西三十五間南北六十間周回百九十間◇

社
天満宮社へ村社、民居ノ東南ニアリ、社地四履欠ク、面積三百四十一坪、菅原道真ヲ祭ル、祭日十月八日、創立年号詳ナラス◇

寺
地藏院へ村ノ東ニアリ、境内東西九間南北十五間、面積百三十坪、浄土宗知恩院末下同シ、開基創建不詳、某年僧泉順中興ス、明治十二年十月阿弥陀寺ト改号ス◇、光明院へ村ノ南ニアリ、境内四履欠ク、面積七十坪八分、天平十年戊寅僧行基創立、天正十九年辛卯僧向譽中興ス、前全年月阿弥陀寺合併ス◇、来迎寺へ村ノ西ニアリ、境内四履欠ク、面積八十三坪余、建立年月不詳、僧宗円開基全上◇、養松寺へ村ノ中央ニアリ、境内四履欠ク、面積四十三坪余、創立未詳、僧春光中興ス同上◇

物産
長芋へ千四百貫目◇、甘藷へ千五百五十貫目◇、梨子へ貳拾四万七百顆◇、実綿へ四千百六十斤◇、製茶へ五百五十斤◇、以上多クハ京域及ヒ伏見へ販売ス

民業
男へ農ニシテ製茶スル者七十一戸、襦業十八戸◇、女へ農ニシテ製茶ヲ業ト襦業ヲナス者十五人◇



枇杷庄村

注：来迎寺、養松寺、光明院は明治12年に廃し地藏院に合併し、地藏院を阿弥陀寺と改称した。(『城陽市民俗調査報告書第1集—ムラのしくみ・なりあいのりー』城陽市歴史民俗資料館、1995年)

史料七 京都府地誌 村誌（観音堂村）

村誌

山城国久世郡観音堂村

本村往古ノ事今考フ可カラス、村中光明寺ニ僧行基ノ彫刻セ
ル観音像ヲ安ス、故ニ村名ニ冠ラシムト云

疆域

東南ハ全郡中村ト字大関山及ヒ長谷川ヲ以テ境シ、西北ハ富
野村ト田疇ヲ以テ境シ、南ハ綴喜郡奈島村ト長谷川ヲ隔テ相

対ス

幅員

東西八町四十二間南北五町二十五間三尺、面積欠ク

管轄沿革元和以降徳川氏・醍醐氏・難波氏分領ス、文久二年壬戌徳川

氏領地ヲ京都守護職役知トス、明治二年ヨリ尽ク京都府管轄

トナル

里程

京都府庁ヨリ南方本村中央ニ達スル六里九町四間、四隣東

南中村中央へ九町三十八間三尺、西北富野村内長池宿里程標

へ六町三十八間三尺、淀小橋へ凡三里、南方綴喜郡奈嶋村中

央へ八町六間三尺、同郡井手村内玉水宿里程標へ一里九町六

間一尺

地勢

東方山岳ヲ負ヒ地形高爽、三面低窪田圃相属ス、運輸便利薪

炭乏シカラス

地味

淡黄色ニシテ其質悪下等、概茶ニ宜シ、水利便ナラスシテ時々

旱ニ苦シム

税地

田へ拾壹丁八反貳拾八歩、畑へ拾貳丁九畝貳拾八歩、大縄

字地

畑へ貳丁貳反五畝拾七歩、山野へ反別定マラス、総計へ貳
拾六丁壹反六畝貳拾三歩

西浦へ村ノ西方耕地ノ惣称ナリ、東西貳丁貳拾貳間南北六丁
半、東浦へ本村ノ中央ヲ云、東西一丁二十九間南北六丁

二十八間余、大開（オホヒラキ）へ村ノ東部ヲ云、東西四丁

二十八間南北凡五丁

貢租

地租へ金七百六拾壹円九拾三銭九厘、口米金へ金貳拾貳円
八拾九銭六厘、山税へ金貳拾壹銭三厘、野税へ金壹円壹銭

四厘、国税へ金五円、府税へ金三円九銭六厘、総計へ金

七百九拾四円拾五銭八厘

戸数

本籍六十五戸へ平民、社二戸へ村社、寺二戸へ浄土宗一宇
真言宗一宇、総計六十八戸

人数

男百五十八口へ平民、女百五十二口へ平民、総計三百十口
へ他出寄留三人男二人女一人

牛馬

牡馬二頭

山

大開山へ村ノ東ニアリ、山勢平夷丘陵ノ如シ、周囲十七丁山
頂ヨリ三分シ、東北ハ富野村ニ属シ富野山ト称ス、南面ハ中

村ニ属シ中村山ト称シ、西面ハ本村ニ属シ各其名称ヲ殊ニス、

山脈綴喜郡ノ諸山ニ連互ス、頂上迄登一丁路険ナラス、松樹

多く、且処々茶圃梅林アリ

川

長谷川へ二等河ニ属ス、源ヲ東方綴喜郡田原郷ノ諸山ヨリ発
シ、同郡市辺村・井手村・本郡中村及ヒ本村ヲ経流シ、富野

村ニ至テ木津川ニ入ル、平時砂礫ノミ霖雨後僅ニ水流ヲ見ル

道路

ノミ、本村ノ間十丁三十一間三尺中一間、常樂溝へ本村西南方常樂池ヨリ発シ、長四丁四十八間流レテ、富野村界ニ入り耕地ニ注ク、巾三尺深五寸、本村ノ水田全ク此ニ資ク、大和街道へ一等道路ニ属ス、村ノ東方ニアリ、北方富野村境ヨリ南方中村境ニ至ル、長六丁十三間巾四間許、字二本松ヨリ西折スル支道ニ条アリテ中央民居ニ通ス、

湖名

常樂池へ村ノ西南疆ニアリ、東西十五間南北十間周囲十五間、涌水四時涸レス、

社

甲(カブト)神社へ村ノ東北隅大開山ニ鎮座ス、村社々地東西十八間南北九十一間三分、面積千六百四十七坪余、素盞鳴尊ヲ祀ル、或云以仁王ノ兜鍪ヲ祭ルト、然トモ確説ニアラス、祭日十月三日、勸建年月詳ナラス、地内老樹若干株アリ、

寺

光明寺へ村ノ中部ニアリ、境内四履欠ク、面積百五十六坪、真言宗京都智積院末、天平五年(カ)行基開基ス、常

樂寺へ村ノ中央ニ在、境内東西十一間五分南北十五間五分、面積百七十九坪、浄土宗京都知恩院ニ属ス、寛永二年丁丑僧

靈極開基草創ス、

物産

製茶へ七千六百斤、其品中等下同シ、甘藷へ三千四百メ目、梅子へ五十一荷余、柿子へ十一荷、紫蘇子へ百五十六斤、菊花へ八荷、当帰へ二十七貫目、以上京阪伏見神戸港等ニ輸出ス

民業

男へ農業四十五戸、雑業二十戸、女へ一般農業及ヒ製茶ヲ事トス、



観音堂村

注：常樂池の位置は『史料が語る城陽近世史一第二集・富野荘地域編一』
「富野荘歴史地図」(城陽市教育委員会、1985年)を参考

史料八 京都府地誌 村誌(中村)

村誌

山城国久世郡中村

古今沿革都テ考徴ヲ欠ク、村ノ西墪二旧出垣内ト称セシ支邑アリ、近時合併シテ一村トス

疆域 東八綴喜郡奈嶋村ト蛇喰山ヲ以テ界シ、西ハ又同村ト道路ヲ

隔テ、南ハ市邊村ト田畑ヲ以テ境シ、北ハ本郡観音堂村ト長

谷川ヲ以テ垠トス

幅員 東西二十八町十八間南北六町三十七間、面積欠ク

管轄沿革旧時ノ事歴詳ナラス、延宝中(カ)勸修寺氏之ヲ領ス、

元禄十六年更ニ徳川氏領トナリ、文久二年又京都守護職領ト

ナリ、明治紀元ニ至リ全ク京都府之ヲ管ス

里程 京都府庁ヨリ南方本村中央ニ達スル六里十三町五十八間、四

隣東綴喜郡奈嶋村境ヘ二十六町五十八間、西同村中央ヘ九町

十間、西北方本郡富野村ノ内長池宿里程標迄十三町五間余

淀小橋ヘ凡三里、南方綴喜郡市辺村中央ヘ六町四十間、同郡

井手村ノ内玉水宿里程標ヘ一里六町十二間余、北観音堂村中

央ヘ九町三十八間三尺

地勢 東北山林重疊シ薪柴之シカラス、西南漸低田塍相望ミ、西ニ

大和街道アリ、故ニ運輸便ナリ

地味 其色淡黄其質脆薄稍茶ニ適フ、灌溉遍ク到ラス故ヲ以テ時々

旱損アリ、

税地

田(拾丁六反式步五厘)、畑(式拾壹丁四反式畝式拾壹步)、大縄畑(壹丁七反五畝拾三歩)、山野(反別欠ク)、總計(三拾三町七反八畝六步五厘)

飛地

字地

本村東南方市辺村ノ内山(四拾九丁八畝步)樋之上(ヒノウヘ) (奈島村ニ沿フ、西ヨリ東ニ連ル、長八丁二十間余)、黒土(クロツチ) (中山ノ下ヲ称ス、東西九丁十間南北一丁四十間)、石神(イシカミ) (南方市辺村耕地ニ接ス、東西八丁二十間南北五丁)

貢租

地租(金九百七拾七円七拾六錢三厘)、口米金(金三拾円六錢九厘)、山税(金拾四円五拾壹錢貳厘)、小松原税(金九円五拾壹錢三厘)、野税(金四拾六錢八厘)、国税(金貳拾貳円)、府税(金六円壹錢貳厘)、總計(金千六拾円三拾三錢七厘)

戸数

本籍百三十三戸(平民)、寄留四戸(平民)、社二戸(村社一座、無格社一座)、寺三戸(浄土宗)、總計百四十二戸

人数

男二百六十六口(平民)、女二百七十六口(平民)、總計五百四十二口(他出寄留男一人外寄留十一人男五人女六人)

牛馬

牝牛三頭

山

中山(高詳ナラス、周囲凡三十七町二十一間、本村ノ東北ニアリ、山脈本村蛇喰山ニ連ル、嶺上ヨリ二分シ、北ハ富野村ニ属シ長谷山ト称ス、余ハ本村ニ属ス、頂上迄昇リ四丁其路嶮シカラス、稚松草生ス、溪水二条一ヲ中山河原、一ヲ長谷川原ト曰フ、字百度(トド)ニ至リ合会シテ長谷川トナリ、観音堂村ニ入り富野村ニ至テ木津川ニ入ル、常水ナシ大雨後

僅ニ流水ヲ見ル、長谷十四丁巾三四尺、蛇喰(シヤバミ)

山へ中山ニ連ル、高詳ナラス、周囲四十二丁五十一間、山頂ヨリ四分シ東ハ綴喜郡立川村ニ属シ黒谷山ト云ヒ、南ハ奈嶋村ニ属シ他ノクビ山トイヒ、北ハ観音堂村ニ属シ長谷山ト云ヒ、西ハ本村ニ属ス、山脈東方ノ諸山ニ綿亘シ松多シ、登路五丁、山間ノ発水青谷川トナリ綴喜郡ヲ流ル、二里余ニシテ末木津川ニ歸ス

樋ノ上溝へ村南字堀畑ヨリ涌出シ、奈嶋村ヲ流レテ木津川ニ会ス、長八丁四十三間巾三尺、全村ノ田拾町余歩ノ悪水ヲ泻下セリ

道路 大和街道へ二等道路ニ属ス、村ノ西端ニアリ、北観音堂村界ヨリ西奈嶋村界ニ至ル、長三丁四十七間幅約スルニ四間、並木ナシ、沿路字中ノ郷字百度ヨリ東ニ折レ支道アリ、数條ニ分レテ田原道ニ通ス、長三十一丁余巾一間、綴喜郡立川村ニ接ス

社 天満宮社へ本村ノ東北ニアリ、村社、菅原道真ヲ祭ル、社地四履欠ク、面積千八百八十六坪、創立年月不詳祭日九月二十五日、正森社へ村ノ南地ニアリ、社地東西八間南北八間、面積六十四坪、素盞鳴尊ヲ祀レル小社ナリ、明治十三年二月天満宮境内ニ移ス

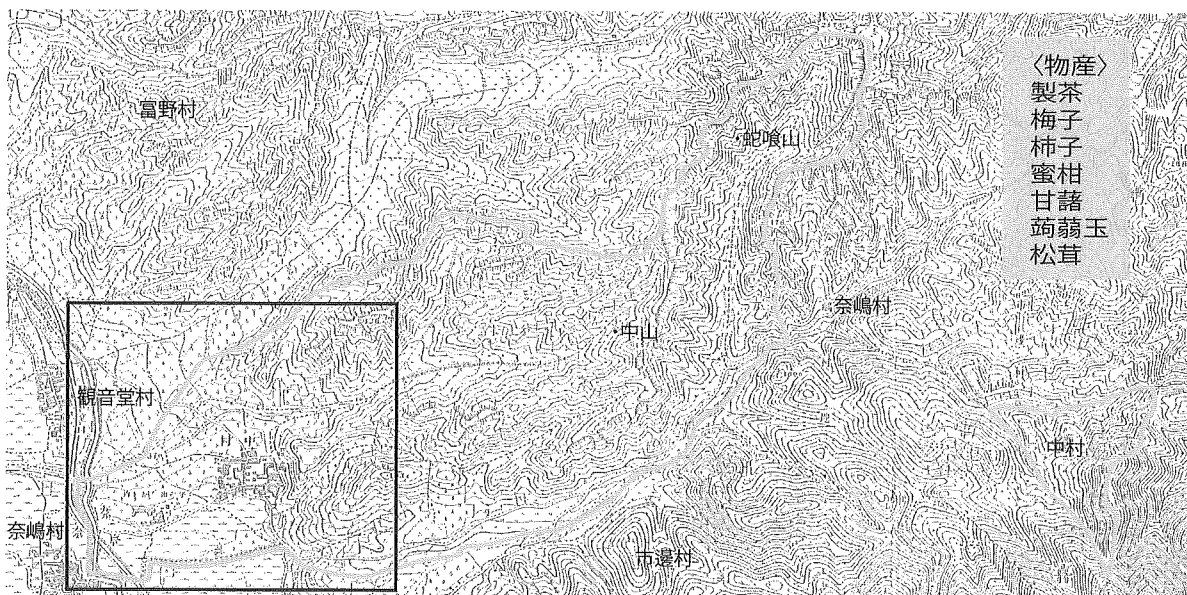
寺 龍福寺へ村ノ東方ニアリ、境内四履欠ク、面積千五百三十七坪、浄土宗黒谷金戒光明寺ニ属ス、慶長十二年丁未僧曇譽開基造建ス、正道寺へ村ノ南端ニアリ、境内東西八間南北八間、

面積六十四坪、浄土宗知恩院末派、開基剋立詳ナラス、地藏院へ村ノ南西ニアリ、境内東西六間南北同シ、面積三十六坪、本村竜福寺ノ末院タリ、寛永十二年乙亥僧善譽開創ス

学校 人民共立小学校一所へ本村竜福寺内ニ仮設ス、生徒男三十人女十六人

物産 製茶へ一万三千二百斤、品味稍佳、梅子へ六千貫目、品中等ニ属ス不同、柿子へ三千六百貫目、蜜柑へ七百廿貫目、甘藷へ三千五百貫目、蒟蒻玉へ千二百貫目、松茸へ百六十貫目、以上京阪伏見及ヒ神戸港ニ輸送ス

民業 男へ農ヲ業トスル者七十九戸、采薪或ハ漁獵ヲナス者三十九戸、余ハ雑業、女へ製茶ヲ業トスル者六十八人、余ハ雑業



〈物産〉
 製茶
 梅子
 柿
 柑
 蜜
 甘藷
 玉
 蒟蒻
 松茸

中村



中村中心部

▲ 寺・社・名所・学校
 無印 字
 ・ 川・山・堤・道路

注：人民共立小学校は龍福寺内に仮設。地藏院は龍福寺の南にある地藏菩薩を祀ったお堂である東林庵か。正道寺は現在のゲートボール場付近にあったという記述あり。不明：正森社（『城陽市民俗調査報告書第1集—ムラのしくみ・なりわい・いのり—』（城陽市歴史民俗資料館1995年）を参考）

史料九 京都府地誌 村誌 (市邊村)

村誌

山城国綴喜郡市邊村

右往所属詳ナラス

疆域

東八同郡南村二界シ山林ヲ以テ区域トシ、東西多賀村二界シ
上方ハ山林下方ハ青谷川ヲ隔ツ、西ハ奈嶋村ト道路ヲ経界ト
シ、東北ハ久世郡中村ニ面ス、上方ハ青谷川下方ハ向井川ヲ
以テ界ス

幅員

東西一里余南北十町、面積未タ実測ヲ経ス
管轄沿革既往ノ事詳ナラス、慶長已後幕領及ヒ旗下士八條氏等ノ采地
タリ、維新後京都府ニ管属ス

里程

京都府庁ヨリ南方伏見通ヲ歴テ本村中央迄里程六里十二町、
童仙房支庁ヨリ西北方里程十八町、四隣東南村へ一里十町、
東南多賀村へ三町十九間、西奈嶋村へ七町四十一間、東北久
世郡中村へ七町四間

地勢

東辺林鬱連ナリ薪柴足ル、西方木津川繞廻シ漕運便ナリ、部
内高燥地勢東ヨリ西ニ傾側ス

地味

白壤或ハ赤壤其質悪シ、稲梁ニ宜シカラス茶稍可ナリ、養水
給セス年々早損多シ

税地

田へ貳拾丁零七反貳畝拾四歩五厘、畑へ拾四丁八反九畝零
壹歩五厘、大繩田へ五畝拾四歩、全畑へ壹丁三反一畝、
反高畑へ壹反七畝、總計へ三拾七丁壹反五畝歩

字地

五嶋へ村ノ西北ニアリ、東西四丁十一間南北二丁二間、小
梨間へ村ノ西北ニアリ、東西四十九間南北一丁、栃ヶ原へ
村ノ西ニアリ、東西四丁三十間南北一丁三十間、芝ハツレ
へ村ノ西ニアリ、東西二丁三十間南北二丁三十間、西川原
へ村ノ南ニアリ、東西五丁廿間南北一丁廿間、蘆原へ村西
南ニアリ、東西四丁南北一丁二十間、南垣内へ村ノ南ニアリ、
東西三丁四十間南北一丁三十間、中垣内へ村ノ中央ニアリ、
東西三丁三十間南北五十三間、北垣内へ村ノ北ニアリ、東
西二丁南北四丁、城下へ村ノ東北ニアリ、東西一丁廿間南
北三丁五十間、阪口へ村ノ東北ニアリ、東西二丁南北二丁、
北山へ村ノ東北ニアリ、東西二丁十間南北二丁廿間、上
芦原へ村ノ東ニアリ、東西六丁十間南北二丁、出川原へ同
上東西三十六間南北四丁十間、石原へ同上東西一丁四十間
南北二丁四十間、大谷へ同上東西二丁四十間南北二丁四十
間、城阪へ同上東西三丁十間南北二丁三間、茶白山へ村
ノ東南ニアリ、東西三丁廿間南北二丁廿間
地租へ米貳百零六石三斗貳升八合、此金千零七拾三円拾八錢
貳厘、山税へ米三石六斗壹升八合、此金拾八円八拾壹錢八
厘、賦金へ口米六石貳斗九升八合、此金三十貳円七拾五
錢八厘、国税へ金八円、府税へ金壹円八拾八錢四厘、
總計へ金千百三拾四円六拾四錢貳厘
本籍八十七戸へ平民、社三戸へ村社、寺一戸へ浄土宗、
總計九十戸

人数 男二百口〔平民〕、女百九十八口〔平民〕、総計三百九十八

口

牛馬 牝牛一頭牝牛一頭総計二頭

山 市邊山〔高周詳ナラス、本村東南方ニアリ、山名太平記ニ出ツ、山脈南鷲峯山ニツラナル〕

川 青谷川〔本名粟〔アワ〕川二等ニ属ス、源ヲ市辺山ニ発シ本

村ヲ環リ奈嶋村ヲ経西北ニ流テ木津川ニ入ル、長凡四十五丁中十五間、平素水流ヲ見ス夏秋ノ際養水充ツ〕

道路 大和街道〔一等道路、西奈嶋村界ヨリ南多賀村界ニ接ス、長

十六丁巾概尔四間、路傍並木ナシ〕、全支道〔奈島村堺ニ起リ東方南村ニ至ル、長一里余巾九尺、西ハ大和街道ニ会シ東ハ近江路ニ通ス〕

社 天満宮社〔村ノ北方ニアリ、村社、境内除地東西四十間南

北五十五間、面積二千百坪、菅原道實ヲ祀ル〕、粟〔アハ〕神社〔本村粟谷ニ鎮座、式内村社々地有税、東西四十五間南北三十八間、面積千七百十坪、祭神詳ナラス、祭日三月八日

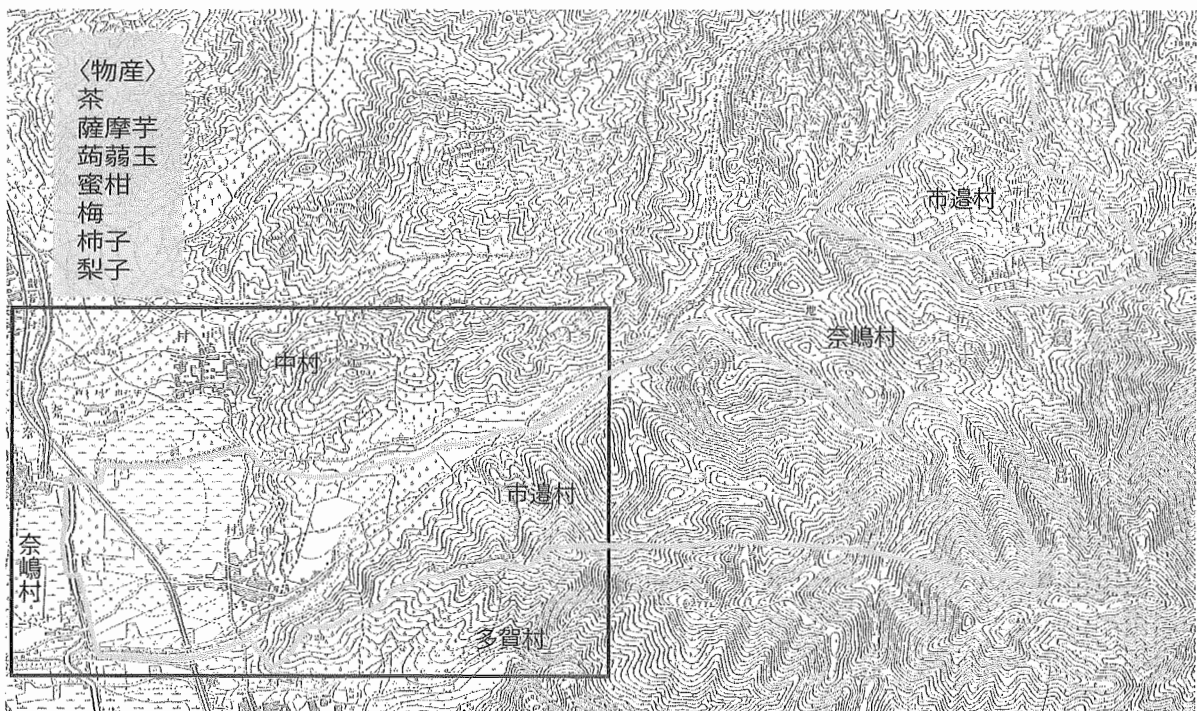
▽

寺 西生寺〔本村東北ニアリ、境内貢地、面積三百七十五坪四至

未詳、浄土宗知恩院末、天文二十三年僧稱念開基〕

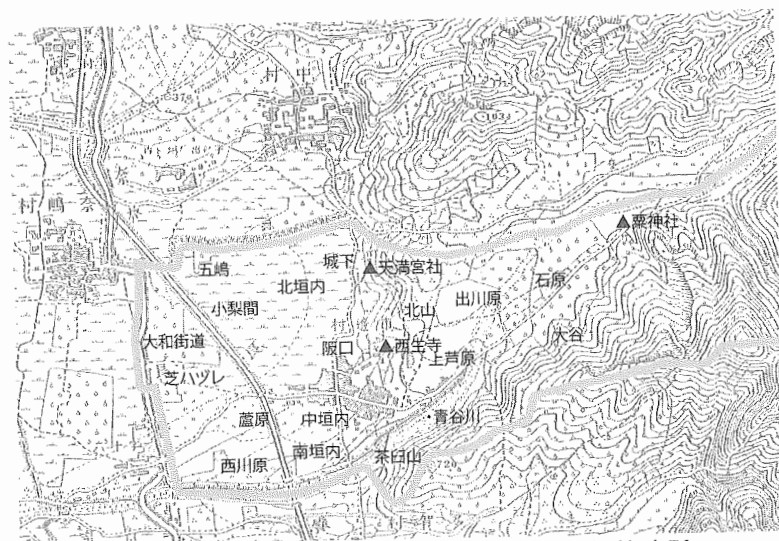
物産 茶〔三千七百五十斤〕、薩摩芋〔六千貫目〕、蒟蒻玉〔六

百十貫目〕、蜜柑〔八百五貫目〕、梅〔三千貫目〕、柿子〔五百貫目〕、梨子〔七百十三貫目〕、以上三府及伏見神戸横濱へ輸出ス



市邊村

民業 男へ農事ヲ専ラニスル者八十戸、製茶業十五戸、女皆農事ヲ助ク



市邊山、栃ヶ原、城阪一不明

市邊村中心部

▲ 寺・社・名所
無印 字
・ 川・山・堤・道路

史料一〇 京都府地誌 村誌 (奈嶋村)

村誌

山城国綴喜郡奈嶋村

本村ハ古ノ志摩郷ナリへ太平記ニ載ル所梨間宿此ナリ、昔時ハ宇治ヨリ久世ノ鷺阪ヲ踰エ、市辺山ヲ直ニ南シテ玉水綺田ニ到ルヲ順路トス、時ニ本村其沿道ニ当レリ故ニ梨間宿ト云テ、今ハ堤上ヲ道路トシ右道ヨリ差西ニアリテ当時ノ地形ヲ異ニス

疆域

東ハ市邊村ト大和街道ヲ以テ界シ、西ハ河原村ト木津川ヲ以テ界シ、南ハ多賀村ト青谷川ヲ以テ界シ、北ハ久世郡観音堂村ト長谷川ヲ以テ界ス

幅員

東西十七町余南北十一町、面積未タ実測ヲ歴ス

管轄沿革往古ヨリ御料及徳川氏麾下ノ私領所タリ、維新以後京都府之ヲ管ス

里程

京都府庁ヨリ南方伏見ヲ歴大和街道筋本村中央迄六里零六

町、童仙房支庁ヨリ西北方市邊村へ七町四十一間、南多賀村

へ十八町、北久世郡観音堂村へ七町八間

地勢

木津川ノ長流前面ヲ横断シ道路之ニ循フ、故ニ漕運便利、東

方山林深密ヲ以テ採樵スルニ足レリ

地味

其色灰白或ハ漆黒、其質稲梁ニ宜カラス茶稍可ナリ、田ハ水

損多ク畑ハ旱魃ヲ患フ

税地

田ハ三拾七町四反九畝四歩、畑ハ五丁九反三畝拾三歩、新

田へ四丁貳反壹畝七歩、新畑へ六丁六反五畝四歩、総計へ五拾四丁貳反九畝零四歩

字地

久保野へ本村宅地、東西三丁南北二丁十間、上ノ段へ南ニアリ、東西三丁四十間南北六丁、十六へ同上、東西一丁五間南北二丁、長尾へ同上、東西一丁十間南北一丁四十間、板倉へ同上、東西一丁三十間南北二丁三十間、河原郷へ同上、東西一丁十間南北三丁三十間、中嶋へ西ニアリ、東西一丁十五間南北二丁五十間、川田へ同上、東西四丁南北一丁十五間、生レ口へ同上、東西三丁四十間南北一丁十間、フケへ同上、東西三丁四十間南北一丁四十間、下ノ畔へ北ニアリ、東西二丁南北一丁二十間、内垣内へ同上、東西一丁三十間南北二丁、外ノ嶋へ西ニアリ、東西十二丁南北二丁、外ノ濱へ南ニアリ、東西十二丁南北十間

貢租

地租へ米貳百三拾石零四斗七升四合、此金千百九拾八円七拾七錢四厘、山税へ米貳石七斗九升貳合、此金拾四円五拾貳錢貳厘、賦金へ口米六石九斗九升八合、此金三拾六円三拾九錢九厘、国税へ金貳拾円、府税へ金八円貳拾七錢八厘、

戸数

本籍百五十四戸へ平民、寄留三戸へ平民、社貳戸へ村社一座小社一座、寺二戸へ浄土宗、総計百六十戸

人数

男三百三十八口へ平民、女三百二十八口へ平民、総計六百六十六口へ外寄留平民男六人女四人合十人

牛馬

牡牛一頭牝牛一頭總計二頭、牡馬四頭

舟車 人力車三輛

川

木津川へ一等川、南境多賀村ヨリ来リ北流シテ富野村境二入ル、長十町余巾三百余間深四尺許緩流ナリ、青谷川へ二等二屬ス、源ヲ市辺村椎尾山ヨリ発シ、市辺村ヲ経テ本村二入り西北流シテ木津川二入ル、夏秋ノ交田ノ養水ニ充ツ、平日乾涸、長凡一里十丁巾概子十五間、悪水吐樋一座アリ

道路

大和街道へ一等道路、東方市辺村二界シ南方多賀村二界ス、長二百八十余間巾通シテ四間、並木ナシ

堤防

木津川堤へ本村ノ西縁ヲ囲ミ南西二横ハル、多賀村ヨリ来リ久世郡富野村二通ス、堤長サ八百七十六間馬踏二間敷十三間、根堅メ竹木アリ、修繕官民兩途二屬ス

社

賀茂神社へ村ノ北方ニ鎮座、式外村社、境域除税、東西二十間余南北三十一間八分、面積六百三十九坪除税、祭日十月十二日、松之本神社へ無格社、西方ニアリ、四至未タ詳ナラス、境内除税、面積十八坪、祭神住吉大明神、祭日十月十二日

寺

深廣寺へ西境ニアリ、封界除地ニシテ四至未タ詳ナラス、表面積二百五十一坪、四至不詳、浄土宗鎮西派京都華頂山知恩院末、天正十七年己丑僧無公開基

村会所

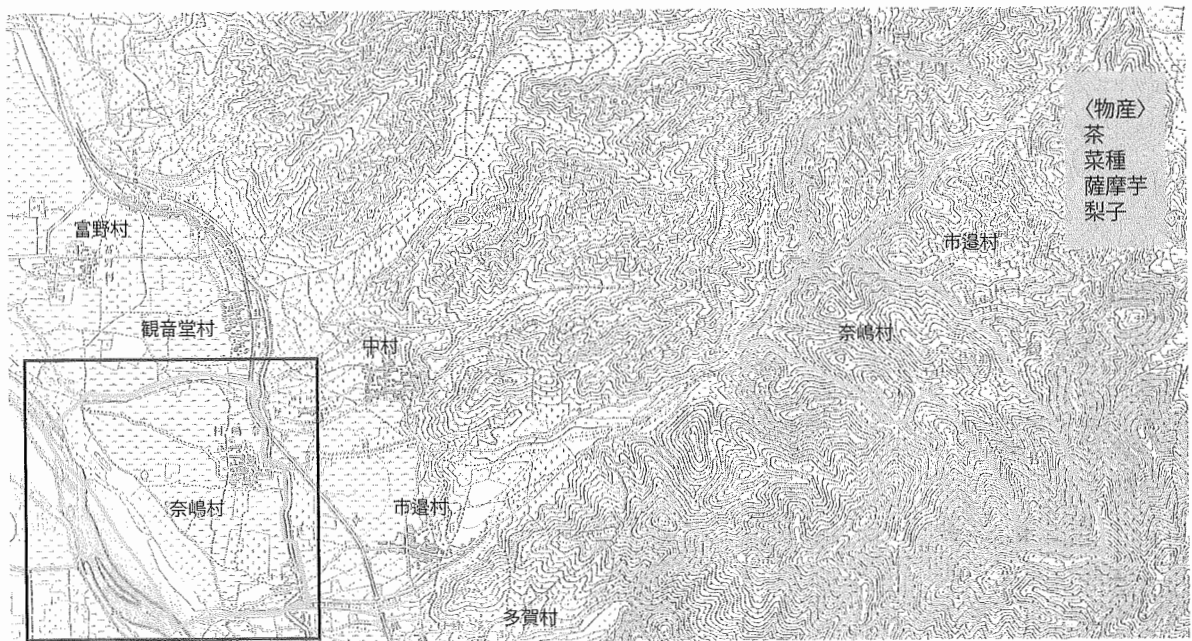
へ賀茂神社ニ隣リ、村ノ北境ニ仮設ス

古跡

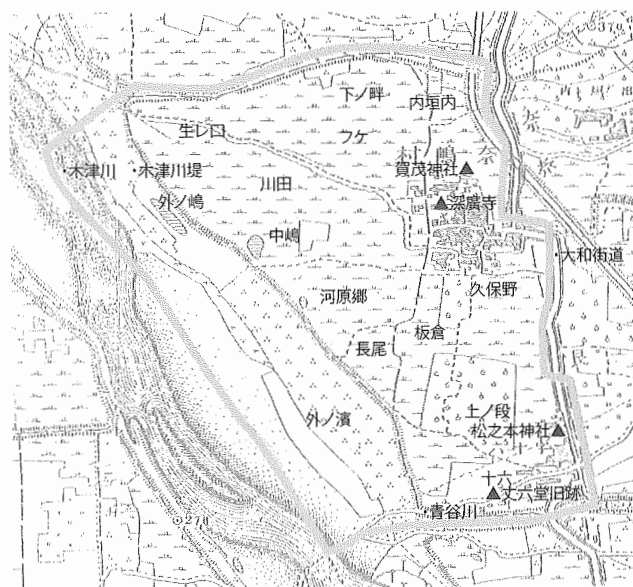
丈六堂旧跡へ大和街道字十六ニアリ、興替年月共ニ詳ナラス、吉記曰不摂貴賤旅人之所宿ト

物産

茶へ三千百二十斤、菜種へ二千三百石、薩摩芋へ四千貫目



奈嶋村



奈嶋村中心部

▲ 寺・社・名所
無印 字
・ 川・山・堤・道路

民業 男へ農業百二十戸、製茶業二十戸、女概へ男業二従事

梨子（千五百貫目）、以上東京大坂伏見及開港場へ分輸ス、

表紙の解説

	1	2	3
5		4	
(裏)		(表)	

- 1 青谷の梅林
- 2 平川の茶摘み
- 3 平井神社の子供相撲
- 4 久世神社社殿
- 5 花しょうぶ畑（花しょうぶは城陽市の市花）



京都府立大学文化遺産叢書 第6集

城陽市域の地域文化遺産 — 神社・街道の文化遺産と景観 —

編集 菱田 哲郎

発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

発行日 2013年3月11日

印刷 株式会社 双林印刷社
〒601-8106 京都市南区新千本通十条下ル
